



シンポジウム

大会 1 日目

6 月 11 日（火） 16 : 00 ~ 17 : 30
市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール

シンポジウム趣旨文

テーマ「世界から見た日本の幼児教育」 ～これからの保育の質とは～

新しい時代に向けて、わが国では保育・教育の質をいかに高め、拡充していくかについての改革が、国際的な視点から実施されています。

今、先進国間の情報・意見交換を行うための国際機関 OECD（経済協力開発機構）では、世界の複雑化・不安定化・多様性がより進むと予測される 2030 年に向けて子どもたちに求められる能力を再定義し、新たな教育の在り方を追求しようとするプロジェクト「EDUCATION 2030」が立ち上がり、2018 年に将来の教育システムに関するビジョンが示されました。これは、予測不可能な時代、人生 100 年時代の到来に向け、知識・スキル・人間性をどのように育むかを検討する、というものです。

更に AI 等の様々なテクノロジーが進化すれば、ただ知識を「暗記」し再生することは重要でなくなります。従来の教育現場では、知識を詰め込み試験の場で正確に再生することが求められていましたが、これからは自主的に学ぶ姿勢をはじめ、態度や価値といった数値では測れないことが重要視されます。

今回のシンポジウムでは、世界が大きく変わっているであろう 2030 年という時代を生きていくために、子どもたちの求められる力とは何か、また、そのためにはどのような教育が必要とされているのかを考える機会になればと思います。OECD の新時代に向けた教育の提言「キー・コンピテンシー（主要能力）」を紐解き、明日の教育・保育について考え、“現場の知”に活かしましょう。